

学校法人内丸学園
盛岡幼稚園
園報
第 253 号
(6 月)
2020

新型コロナウイルス感染症に寄せて

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

新年早々の新型コロナウイルス感染症発症は、瞬く間に世界中に拡大し三月十一日には世界保健機関(WHO)のパンデミック宣言、わが国でも四月七日には七都府県に特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令され、更に十六日には、五月六日までの期間で全国に同宣言の拡大を図り、そのため文科省は一斉休校自粛指示で感染の鎮静化対応。しかし、厚労省の福祉現場は感染予防に留意し原則開所の指示で保育所・認定こども園は戸惑いながら、岩手県の場合は多くの施設で開園することになりました。

このウイルス感染は、現在のところ風邪の症状のみで自然治癒する方 80%、後の 20% の中で重症化し新型コロナウイルスに移行し指定病院に入院・集中治療を要する状況と報告されております。

現状、有効な治療薬がなく、人から人への感染防止、飛沫感染、接触感染予防を徹底し、不要不急の外出自粛、三密回避の徹底、マスク・手洗い消毒・うがいの励行、或いはテレワークを含めた新生活様式の励行等、人々の自主的な感染予防に期待する対応策です。

このようなことで、当園でも園児はもとより職員も出勤時検温で

異常確認を図り、マスク着用や消毒など徹底予防を強化し、三密を考慮して諸行事を中止しつつ、日常業務を実施しております。保護者の皆様方には情報共有と応分のご協力をお願いし何とか発症を防ぐことに努めております。

第一学期終了が目前ですが、子どもたちの日常活動、諸行事を中止や変更を余儀なくされ、例えば恒例の春の親子バス遠足、保育参観の中止、年長児のお泊り会中止、毎月のお楽しみお誕生会の簡素化、毎日の給食のお楽しみも三密を考慮。また子育て支援事業のトトロ事業や外部講師の英語で遊ぼうも延期しております。なお第二学期早々の運動会もどう実施するか等を検討中で、本年の新型コロナウイルス禍は子どもたちの育ちに多くの犠牲を強いており、今後これをいかに取り戻すか真剣に協議しております。

幼児期の教育・保育の業務特性として三密の密集・密接には限界があり、その徹底となれば業務休園やむを得ないことです。第二波

発症時には、クラスター予防の観点から原則開所ではなく閉所を原則として、やむを得ない事情の幼児を受け入れる開園体制にすることも考慮されます。また幼児が陽性となった時の二週間程度の個別隔離療養は子どもへの心のケアを含め課題がありそうです。この度の新型コロナウイルス禍は、様々な課題を提供しております。関係する行政機関と現場が一体となって細心の注意をもって、早期の感染終息対応策を強化する必要があります。



“みんなでコロナ予防！”

空気の教育

園長 坂本信行

今、目に見えない新型コロナウイルスが猛威を振るって、私たちを不安にしています。

「空気の教育」という言葉があります。これは、お茶の水女子大学名誉教授の外山滋比古（しげひこ）氏が唱えています。空気は目に見えないし、その存在さえ普段気に留めていませんが、わたし達は空気がなければ生きていけないし、生きていくうえには絶対必要なものです。しかも、その空気は汚れていないものが要です。

子育てにもこの空気のように普段気に留めていないが、なくてはならない大事なものがあります。それは子どもをとりまく周りの望ましい雰囲気です。家庭であれば、家のかもし出している雰囲気「家風」であり、幼稚園であれば「園風」のようなものです。その目に見えない雰囲気を大事にして教育をするというのが、「空気の教育」です。

その雰囲気の子どもの成長に

とって望ましいものにするには、普段からの大人の努力が必要です。その何点かについて園で気を付けていることを書きます。

職員の好意的な接し方

子どもは、職員から認められたい、ほめられたい、好かれたいたいという基本的な欲求をもっています。園ではまずこの子どもの持っている基本的な欲求が満たされるような雰囲気づくりに努めています。これによって子どもは、情緒的に安定して過ごすことができるようになります。

相対的な見方と絶対的な見方

子どもの評価の仕方には、「相対的な見方」と「絶対的な見方」があります。相対的な見方とは、その子どもが同年齢の子どもに比べてどれくらいできるとか、有能であるかといった見方です。それに対し、絶対的な見方とは、他人との比較ではなく、一人ひとりの

子どもが目標（課題）に対してできるかできないかで評価しようとするものです。この評価の利点は、子どものもっている人間性のよさを見ようとする見方ができます。

現在の世の中は競争社会的な見方が充満し、他人との比較によって人間を評価しようとする傾向が強くなります。したがって、親が子どもを評価するときも、誰々さんと比較して「できる」とか「できない」とかで判断しようとしがちです。また、画一的なものを求めようとする傾向もあります。

絶対的な見方が重要

私は、子どもを認める、ほめるには、絶対的な見方が重要で不可欠であると考えています。それは、他との比較である相対的な見方であれば、他の人よりできるとか他の人に勝ったことでほめられることとなります。それでは勝ち組しかほめられないこととなります。それに対して、絶対的な見方であれば、他人との比較ではなく、その個人の前の状態との比較のみでできることで、ほめる要素は多岐にわたることができず。そのことは、全員をほめることもで

きます。また、取り組んだ結果だけでなく、そのプロセスにも注目できます。取り組む意欲や態度にも目を向けることができます。このようなことから、子どもを認める園の雰囲気として、絶対的な見方が欠かせませんし、そのことを大事にしています。

このような見方は、「みんな違ってみんないい」の見方にも通じるものです。

子どもの評価には絶対的な見方は欠かせませんが、それだけでは不十分で相対的な見方も必要です。それは、子育ての目標は、その子が大人になって社会で自立できることにあります。それには、人間性を養うことに加えて、世の中で職を得るといふ有能性を身に付けることも必要だからです。

終わりに

今回は園で気を付けている「空気の教育」について書きました。この機会に、ご家庭でも、目に見えないコロナ感染症予防に努めながら、「子育て」で大事にしている家庭の雰囲気を話し合ってみてはどうでしょうか。子どもたちの健やかな成長を楽しみにしています。

子どもの遊び・生活から

「もうAクラスさんだから!」

Aクラス担任 千葉 麻由佳

幼稚園で1番のお兄さんお姉さんという気持ちが大きい年長児の子どもたち。困っている子がいると、声を掛けたり一緒に手伝ってあげる姿から、相手を思いやる優しさが育ってきていると感じています。

子どもたちは体を動かして遊ぶことが大好きで、「見て見て!!」と鉄棒や登り棒・滑り棒に挑戦して、少しずつできるようになっていくことを喜んでいきます。また、今年から個人持ちの絵の具やサインペンが増えたことで、これまでの経験から子どもたちはより想像力豊かに遊んでいます。オリジナルジュースを作ったり、カラーポリ袋でプリンセスのドレスを作ったりして装飾したりと、友達とイメージを共有しながら楽しんでいきます。日々の生活が遊びに映されていることも多く、テレビを作った「明日の天気は晴れです。あつ、大変です!緊急速報が入りました!」



などとニュースを読んで遊んでいる子もいます。これからも、子どもたちの『作りたい』『やりたい』という思いを支えていきたいと思っています。

32名の人と関わるいっ

Bクラス担任 竹岡 真美

32名のBクラス。毎日元気いっぱい賑やかに過ごしています。

Bクラスは、2階の学年では真ん中のクラスです。一つ大きいAクラスさんが開くアイス屋さんでお買物ごっこをさせてもらった



「アイスくださいー!」

り、廊下の壁面に貼ってあるAクラスの作品を「上手だね」と言いながら見たりしています。一つ小さいCクラスさんに対しては、自分達がお兄さん・お姉さんということで、登園して玄関で会うと「連れてってあげる!」と手を繋いでCクラスのお部屋まで送ってくれる子もいます。このように、異年齢の子達との関わりから得られるものを大事にしていきたいと思っています。

もちろん、クラスの友達も大きな存在です。友達と一緒に楽しめること、この人数だからできることがたくさんあります。時にはぶつかることもあるかもしれませんが、それも大事な経験になっていくと思います。

この一年、年上の子、年下の子、クラスの友達…いろいろな人との関わりの中で一人ひとりが成長できるよう、支えていきたいです。

Cクラスの子も達

Cクラス担任 瀧山 茉保

初めてのエプロンやバッチ、初めてのお部屋…。ドキドキ・ワクワクしながらたくさんの「初めて」を経験して早くも二か月が経とう

としています。朝、お家の人と離れるときに寂しくなって涙が出ていた子も、幼稚園でお友達や先生と一緒に楽しい遊びを見つけて行くうちに少しずつ笑顔が増えて、幼稚園が楽しいという気持ちがいっぱいになっていくように感じ、嬉しく思います。

一人の遊びから、だんだんと周りの友達が気になってきて、お友達との遊びも増えてきました。友達と一緒にお面を被ってキャラクターになりきったり、おままごとでご飯を作ったり一緒に食べたりして笑顔で遊んでいます。友達と一緒に楽しいと感じている反面、自分の思いが上手く伝わらない悔し



“お友達と一緒に♪”

さや、言葉に出せなくて葛藤する場面もあります。子どもたちなりに自分の思いを表出していて、私たちも思いを受け止めながら、必要な言葉を伝えて過こしています。これからも、子ども達が様々な経験をして成長していく姿を見守り、支えていきたいと思っています。

「成長を体感する日々」

つばみクラス担任 坂本 千夏

進級児八名、新入児八名、計十六名でスタートしたつばみクラス。新しい環境に初めは緊張や不安を見せていた子ども達でした。

六月になった今、つばみクラスには、子ども達のたくさん笑顔があふれています。一日先生の抱っこで過ごしていた新入児も、好きなおもちゃや絵本を見つけて、遊んでいます。進級児は、昨年一年間過ごした友達と一緒に遊ぶことが嬉しい姿が見られます。また、新しい友達の名前を覚え、呼びながら同じ遊びをするなど、新入児、進級児のかかわりも出てきました。子ども達が楽しく遊んでいる姿を見て安心とともに喜びを感じています。

四月から、つばみクラスの子どもの成長の一つ一つを体感しています。日々成長していく子ども達の今を大切に、楽しいこと、嬉しいこと、時にはそうでないことも保護者の皆様と共有しあつて、子ども達の成長と一緒に見守りたいと思っています。



「一緒にいたずら。」

新しい先生の紹介

いちごクラス担任 齊藤 綾

「やってみたい！」と色々なことに目をキラキラさせているいちごクラスの子どもたちとの毎日を楽しみながら、私自身もたくさんのお話を吸収していきたいです。よろしくお願ひします。

ふたば会会長から

つばみとの中から

井上 久美子 (A 菜実)

1 歳児からお世話になつている娘が A クラスに進級して 3 か月。憧れの水色バッチを付け、毎日元気いっぱい登園しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、鯉のぼり掲揚式でのダンス披露や参観日などの行事が中止となり、親としては少し残念に感じる場所もありましたが、子供達の安全を第一に考え、日々対応してくださる先生方に感謝しております。

様々な行事が中止になり、娘も悲しんでいるのかなと思いきや、今は観察園の植物の成長に夢中で、目先のことに落胆するのではなく、できることから常に先の楽しみを見いだしている姿に感じます。

ふたば会の活動も例年通りとはいきませんが、役員一同できる範囲で活動しています。園や子供達、そして保護者の皆様にとつて、少しでも魅力ある活動ができるよう努めていきたいと思ひますので一年間よろしくお願ひします。

編集後記

梅雨の時期を迎え、園庭の木々や観察園の野菜、お花の生長を楽しみに水やり当番が始まりました。

現在 140 名の子ども達は自分の世界を広げるため、また一歩踏み出し始めたところです。

第一学期はほとんどの行事が中止となり、心が痛む毎日でした。そんな状況の中にあつても、子ども達は子ども達らしくあり、日々の積み重ねからも逞しく成長していく姿を見せてくれました。日々の生活の大切さや、見過ごしていた小さな事柄をじっくりと見つめ返すことの大切さを子ども達から改めて教えてもらったような気がします。

どんな状況であれ、これからも子ども達と共に歩いていきたいと思ひます。

学校法人 内丸学園

幼保連携型認定こども園

盛岡 幼稚園

〒020-0002

盛岡市中央通一六―四七

TEL 六二二―二三〇一

理事長 坂本 洋